

施策評価（令和3年度）

施策評価調書

基本政策4 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化			
施策(2) ICT利活用による地域の活性化			
幹事部局名	企画振興部	担当課名	デジタル政策推進課
評価者	企画振興部長	評価確定日	令和3年8月26日

1 施策のねらい（施策の目的）

県、市町村、関係団体、大学等が連携してICTの利活用分野を検討し、ICTの利活用で地域課題の解決を行うほか、医療や福祉などの県民に身近な分野におけるICTの利活用を推進し、地域活性化に貢献します。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	施策の方向性(1)	
							R3 (H33)	備考
実施されたICTを用いた地域活性化事業数 (累積)(件)	目標			1	2	2	3	
	実績	0	2	3	6	8		
	達成率			300.0%	300.0%	400.0%		
出典:県デジタル政策推進課調べ	指標の判定			a	a	a		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> ICT等の先進技術の利活用の促進等を目的として、県内の団体、企業、大学、自治体等により設立された「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」では、総会や専門部会を通じてICTを用いた地域の活性化事業等に関する様々な取組を行っており、県は、当該事業への助言等の支援を行っている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、一堂に会した情報交換や現地に赴いた助言等の活動は減少したものの、ローカル5Gの活用とフレイル健診のシステム改良に関する助言の具現化などにより実績が増加した。 							

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

① ICTによる地域課題解決と事業化支援【デジタル政策推進課、デジタルイノベーション戦略室】	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> ・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」において、セミナー（6回<±0回>）及び技術研修会（6回<+4回>）を開催した。 ・次の地域活性化事業に対し助言を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ①ローカル5Gを活用した取組として、（株）秋田ケーブルテレビを中心に、秋田拠点センターALVEにテレワーク拠点を整備（令和3年3月に営業開始）したほか、次世代アリーナの実現のため、秋田市立体育館にスポーツ視聴環境の拡張（高精細・マルチアングル等）やeスポーツイベントを実施できるローカル5G環境を整備した。 ②介護予防を目的として導入される「フレイル健診」について、県内企業の（株）アルファシステムを中心に、IoTや医療センサを使ったシステムを改良し、健診メニューに新たに口腔健診を追加したほか、受付・進捗管理・レポート印刷までの一連作業をデジタル化した。県内5市町（男鹿市、大館市、大仙市、藤里町、三種町）で実証を行った。 ・県内25市町村を訪問し地域課題についてヒアリングを行い、課題の掘り起こし（具体化）と先進技術の活用について意見交換を行った。 		
<p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大前は地域課題解決に向けたヒアリングや助言等を現地に赴き行っていたが、令和2年度はほとんど出向くことができなかった。 		

② 身近な分野におけるICT利活用の促進【デジタル政策推進課、デジタルイノベーション戦略室】	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業や自治体が抱える課題の解決の参考となる場の提供、県民の先進技術に関する理解促進等を目的として、「秋田ICTフェア2020」をオンラインで開催した。ICT関連企業や大学など33団体<+2団体>が先進技術を用いた製品やサービス、研究成果等を出展したほか、共催のNTT東日本が地方創生やICTの先進事例に関する講演を行った。開催期間（R3.1.20~26）は3,466件のアクセスであった（昨年度はアルヴェで2日間開催し、延べ1,500人程度来場）。 		
<p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田ICTフェアは、県民や企業にVR（バーチャルリアリティ）やプログラミング、eスポーツ等の体験や、先進技術を活用した機器等に直接触れることなどを通じて理解を深めてもらうだけでなく、県内ICT企業から直接説明を受けて商談につながるマッチングの場の提供のために開催しているが、感染防止のためオンライン開催にしたところ、前年の実開催では176件あった商談につながるやりとりが生まれなかった。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「実施されたICTを用いた地域活性化事業数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

●定量的評価: 代表指標の達成状況から判定する。

「A」: 代表指標が全て「a」、「B」: 代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」: 代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」: 代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」: 代表指標が全て「e」、「N」: 代表指標に「n」を含む

●定性的評価: 成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■総合評価: 定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 各自治体が抱える地域課題について市町村訪問してヒアリングしているが、具体的な課題の掘り起こしまで至らないのが現状である。	○ 継続的に市町村へのヒアリングを行い、各市町村が抱える課題の具体化に向けた支援を行うとともに、課題解決に向けたICT活用事例等を紹介する。
(2)	○ ICT技術が急速に進歩しており、県民に身近な分野において地域活性化を図るためにどのようなICT技術が利用できるのか、時機を逸することなく広く普及啓発をすることが難しい。	○ 「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」を通じて、先進的な導入事例や県内ICT企業の技術を紹介し、関係団体の取組を促進するとともに、「秋田ICTフェア」等の一般向けのイベントを通じて、県民の先進技術に関する理解の促進を図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「A」をもって妥当とする。
